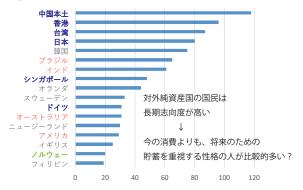
## なぜ貿易不均衡は起きるのか? データとシミュレーションで解明

(2)

(1) 日本や中国の対外債権は際限なく増加中 アメリカとの貿易摩擦・国際問題が発生。その理由は? 日本の国際収支の GDP 比率 それでも経常収支 は黒字で安定的 日本は30年間ずっと 4 貿易黒字国だった 所得収支は 3 増加傾向 暦年 だんだん貿易 赤字 赤字傾向に ---- 貿易サービス収支 (輸出額一輸入額) 所得収支 (対外資産からの収益。利子など) - 経常収支 (この2つの合計。経常収支黒字なら対外資産増える) 日本の対外純資産の GDP 比率 (日本全体が外国に持つ資産一負債) アメリカの対外練資産(GDP H:率%) 対外資産がどんどん増える それがさらに所得収支里字を生む どこかが純負債国のはす

3 長期志向度(Long Term Orientation)の国際格差



● 仮説: 長期志向な国民 ⇒ 貯蓄が多い ⇒ 消費<生産 ⇒ その差は海外に輸出(貿易黒字) ⇒ 対外資産国に

## これまでの国際マクロ経済理論:

世界各国の人は本質的に同じ。不均衡が発生するなら、環境に問題があるはず ⇒不均衡の原因を是正すべき! (トランプ政策?)

データとシミュレーションに基づく新しい国際マクロ経済理論:

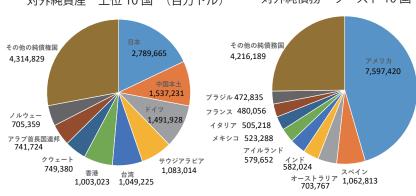
世界各国の人の行動(性格・好み)は異なる

⇒ 不均衡は必然、無理に是正しないほうが、両国にとって便益がある (今後もアメリカの対外債務が増えることを、アメリカに納得させる必要あり)

## 社会経済研究所 教授 堀井 亮

世界全体での不均衡はどうなっているか 世界の国を対外純資産国(資産>負債)と対外純債務国に分類

対外純資産 ト位 10 国 (百万ドル) 対外純債務 ワースト 10 国



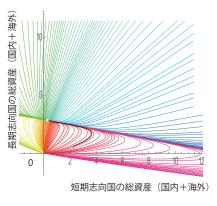
東アジア (シンガポールは中華圏)+ゲルマン系+産油国

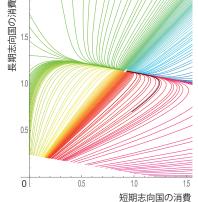
英語圏+ラテン圏

● 経済制度や経済力ではなく、文化・言語的な違いが不均衡の原因?

## (4) 長期志向度(時間選好率)の異なる2国マクロモデルシミュレーション

長期的な資産・消費の動きをモデル化 (短期的な景気変動や為替レートの動きは含まず) 短期志向国 (例:アメリカ) が初期時点において、長期志向国 (例:日本) よりも相対的に豊かな状況を想定。





モデルによる将来予想: 貿易サービス収支は変動しつつも、長期的には赤字になる。しかし、 対外純資産のおかげで所得収支はそれ以上のプラスなので、経常収支は若干の黒字基調になると考えられる。